

EGOTERIC

F-01/F-02

取扱説明書

目次

エソテリック製品をお買い上げいただき、誠にありがとうございます。
 ございます。

エソテリック製品は、最良の音質で末永くお使いいただく
 ために、一台一台を厳しい品質管理のもとに製造してあり
 ます。最良のコンディションでお使いいただくために、ご
 使用になる前にこの取扱説明書をよくお読みください。ま
 た、お読みになったあとは、いつでも見られるところに保
 証書と一緒に大切に保管してください。

末永くご愛用くださいますよう、お願い申し上げます。

安全にお使いいただくために.....	4
お使いになる前に.....	7
使用上の注意.....	7
接 続.....	8
スピーカーとの接続.....	10
接続 (プリアンプとして使用する場合).....	11
ES-LINK Analog で接続する.....	12
ヘッドホンの接続.....	13
各部の名称 (本体).....	14
リモコンについて.....	15
各部の名称 (リモコン).....	16
基本操作.....	18
設定.....	21
設定 1.....	22
設定 2.....	24
設定 3.....	26
保護回路について.....	28
困ったときは.....	28
仕様 F-01/F-02.....	29
寸法図 F-01/F-02.....	30
保証とアフターサービス.....	31

ESOTERIC およびエソテリックは、ティアック株式会社の
 登録商標です。

その他、記載されている会社名、製品名、ロゴマークは
 各社の商標または登録商標です。

安全にお使いいただくために

製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、以下の注意事項をよくお読みください。

	警告 以下の内容を無視して誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。
 電源プラグをコンセントから抜く	<p>万一、異常が起きたら 煙が出たり、変なにおいや音がするときは 機器の内部に異物や水などが入ったときは この機器を落としたり、カバーを破損したときは すぐに機器本体の電源スイッチを切り、必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。 異常状態のまま使用すると、火災・感電の原因となります。 販売店またはティアック修理センター (32 ページ) に修理をご依頼ください。</p>
 禁止	<p>電源コードを傷つけない 電源コードの上に重いものをのせたり、コードを壁や棚との間に挟み込んだり、本機の下敷きにし 電源コードを加工したり、無理に曲げたり、ねじったり、引っ張ったり、熱器具に近づけて加熱したり コードが傷んだまま使用すると火災・感電の原因となります。 万一、電源コードが破損したら (芯線の露出、断線など)、販売店またはティアック修理センター (32 ページ) に交換をご依頼ください。</p> <p>付属の電源コードを他の機器に使用しない 故障、火災、感電の原因となります。</p> <p>交流 100 ボルト以外の電圧で使用しない この機器を使用できるのは日本国内のみです。表示された電源電圧 (交流 100 ボルト) 以外の電圧で使用しないでください。また、船舶などの直流 (DC) 電源には接続しないでください。火災・感電の原因となります。</p> <p>この機器を設置する場合は、放熱をよくするために、壁や他の機器との間は少し (20cm 以上) 離して置く ラックなどに入れるときは、機器の天面から 30cm 以上、背面から 20cm 以上のすきまをあげる すきまをあげないと内部に熱がこもり、火災の原因となります。</p> <p>この機器の通風孔などから内部に金属類や燃えやすい物などを差し込んだり、落としたりしない 火災・感電の原因となります。</p> <p>この機器の通風孔をふさがない 通風孔をふさぐと内部に熱がこもり、火災の原因となります。</p>
	<p>イヤホンやヘッドホンからの過度の音圧は、聴覚障害の原因となります。聴覚障害の可能性を防ぐために、長時間、高音で聴かないでください。</p>
 指示	<p>電源プラグにほこりをためない 電源プラグとコンセントの周りにゴミやほこりが付着すると、火災・感電の原因となります。 定期的 (年 1 回くらい) に電源プラグを抜いて、乾いた布でゴミやほこりを取り除いてください。</p>
 禁止	<p>機器の上に花瓶や水などが入った容器を置かない 内部に水が入ると火災・感電の原因となります。</p>

	警告	以下の内容を無視して誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。
	分解禁止	<p>この機器のカバーは絶対に外さない カバーを開けたり改造すると、火災・感電の原因となります。 内部の点検・修理は販売店またはティアック修理センター (32 ページ) にご依頼ください。</p> <p>この機器を改造しない 火災・感電の原因となります。</p>

	注意	以下の内容を無視して誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。
	電源プラグをコンセントから抜く	<p>移動させる場合は、電源のスイッチを切るか、またはスタンバイにし、必ず電源プラグをコンセントから抜き、外部の接続ケーブルを外す ケーブルが傷つき、火災・感電の原因や、引っ掛けてけがの原因になることがあります。</p> <p>旅行などで長期間この機器を使用しないときやお手入れの際は、安全のため必ず電源プラグをコンセントから抜く 通電状態の放置やお手入れは、漏電や感電の原因となる場合があります。</p>
	指示	<p>オーディオ機器を接続する場合は、各々の機器の取扱説明書をよく読み、電源を切り、説明に従って接続する また、接続は指定のケーブルを使用する</p> <p>電源を入れる前には、音量を最小にする 突然大きな音が出て聴力障害などの原因となる場合があります。</p> <p>F-01 は約 32.2kg、F-02 は約 32.4kg あり大変重いので、開梱や持ち運びの際はけがをしないように注意する</p> <p>この機器はコンセントの近くに設置し、電源プラグは簡単に手が届くようにする 異常が起きた場合は、すぐに電源プラグをコンセントから抜いて、完全に電源が切れるようにしてください。</p> <p>この機器には、付属の電源コードを使用する それ以外の物を使用すると、故障、火災、感電の原因となります。</p>
	禁止	<p>ぐらついた台の上や傾いた所など不安定な場所に置かない 湿気やほこりの多い場所に置かない。風呂、シャワー室では使用しない 調理台や加湿器のそばなど油煙や湯気があたる場所に置かない 火災・感電やけがの原因となる場合があります。</p> <p>電源プラグを抜くときは、電源コードを引っ張らない コードが傷つき、火災・感電の原因となる場合があります。 必ずプラグを持って抜いてください。</p>
	禁止	濡れた手で電源プラグを抜き差ししない 感電の原因となる場合があります。

安全にお使いいただくために (続き)

電池の取り扱いについて

本製品は電池を使用しています。誤って使用すると、発熱、発火、液漏れなどの原因となりますので、以下の注意事項を必ず守ってください。

	警告 乾電池に関する警告
---	---------------------

 禁止	乾電池は絶対に充電しない 破裂、液もれにより、火災・けがの原因となります。
---	--

	警告 電池に関する警告
---	--------------------

 強制	電池を入れるときは、極性表示 (プラス ⊕ とマイナス ⊖ の向き) に注意し、電池ケースに表示されているとおりに正しく入れる。 間違えると電池の破裂、液漏れにより、火災、けがや周囲を汚損する原因となることがあります。
---	--

 強制	長時間使用しないときは電池を取り出しておく 液が漏れて火災、けが、周囲を汚損する原因となることがあります。もし液が漏れた場合は、電池ケースに付いた液を良く拭き取ってから新しい電池を入れてください。また、万一漏れた液が身体に付いたときは、水で良く洗い流してください。
---	---

 禁止	指定以外の電池は使用しない。 新しい電池と古い電池、または種類の違う電池を混ぜて使用しない 破裂、液漏れにより、火災、けがや周囲を汚損することがあります。
	炎天下の車内や暖房器具のそばなど、温度が高くなる場所で保管しない 本体の変形によるショートや発火、故障、電池の劣化の原因となります。

	注意 電池に関する注意
---	--------------------

 禁止	金属製の小物類と一緒に携帯、保管しない ショートして液漏れや破裂などの原因となることがあります。
	電池を熱したり、火または水に投げ入れたりしない 電池の破裂、液漏れにより、火災・けがや周囲を汚損する原因となることがあります。

 分解禁止	分解しない 電池内の酸性物質により、皮膚や衣服を損傷する恐れがあります。
---	---



愛情点検

電源コードや本体に異常がないか、定期的に点検してください。
内部にほこりがたまったまま、長い間掃除をしないと火災や故障の原因となることがあります。
特に、湿気の多くなる梅雨期の前に行うと、より効果的です。
5年に1度は、販売店またはティアック修理センター (32 ページ) に内部の点検をご依頼ください。
費用についてはお問い合わせください。

お使いになる前に

付属品の確認

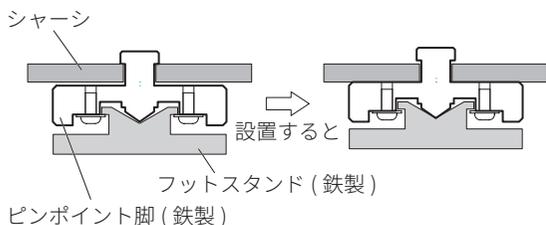
万一、付属品に不足や損傷がありましたら、お買い上げになった販売店または弊社 AV お客様相談室 (32 ページに記載) にご連絡ください。

- 電源コード × 1
- リモコン (RC-1339) × 1
- リモコン用乾電池 (単 3) × 2
- フェルト × 4
- 取扱説明書 (本書) × 1
- ご愛用者カード × 1

設置について

本機の底板には、高精度の鉄製ピンポイント脚が取り付けられています。

ピンポイント脚とフットスタンドは、ぐらついた状態になっていますが、設置するとピンポイント支持になり、振動を効果的に分散させます。



- 設置後にシャーシとピンポイント脚との間にすき間があるときは、ピンポイント脚をネジを締めこむ方向に回すと、すき間がなくなります。
- 設置面を傷付けたくない場合は、フットスタンドの裏に付属のフェルトを貼ってお使いください。
- 本機は大変重いので、設置の際は、けがをしないように十分ご注意ください。

お手入れ

製品表面の汚れは、乾いた柔らかい布で拭いてください。ひどい汚れのときは、固く絞った布で水拭きしてください。

ゴムやビニール製品を長時間触れさせると、キャビネットを傷めることがありますので避けてください。化学ぞうきんやベンジン、シンナーなどで拭かないでください。表面を傷める原因となります。

⚠️ お手入れは安全のため電源プラグをコンセントから抜いて行ってください。

使用上の注意

- 組み合わせて使用するステレオシステムのそばの安定した場所に設置してください。
- 本機の上には物を置かないでください。上に布をかけたり、毛足の長いじゅうたんや布団の上に置かないでください。
- CD、CD-R、カセットテープ、他のオーディオ機器など、熱に弱いものを本機の上に置かないでください。
- 直射日光が当たる場所や暖房器具の近くなど、温度が高くなるところに置かないでください。また、他のアンプなど熱を発生する機器の上には置かないでください。
- 極端に温度が低い場所や、湿気やほこりの多い場所には置かないでください。
- A 級アンプを搭載しているため、ヘッドホンやプリアウト使用時でも天板が熱くなりますが、異常ではありません。(F-01 のみ)
- 熱くなりすぎると加熱保護回路 (28 ページ) が動作するので設置 (4 ページ) には注意してください。

電源の極性

付属の電源コードのプラグ部分に丸い突起がある方が、本機のアース側を示しています。

一般的に、家庭用電源コンセントの差し込み口は、長い溝の方がアース側です。

接続時の電源プラグの差し込む向き (極性) によって、音質が変わることがあります。お好みの音質となる向きで接続してください。



音のエチケット

楽しい音楽も、場合によっては大変気になるものです。静かな夜間には小さな音でもよく通り、隣近所に迷惑をかけてしまうことがあります。

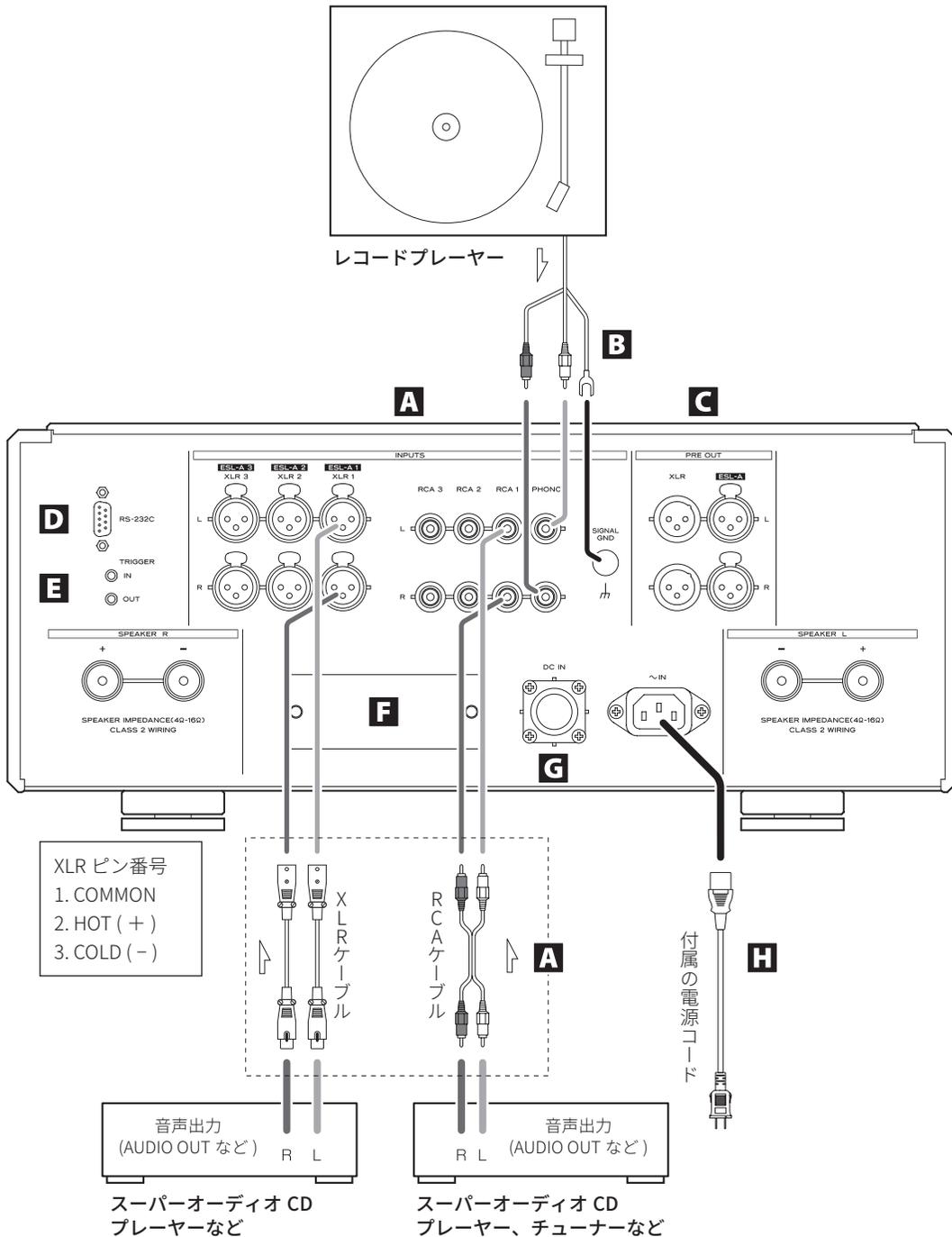
適度な音量を心がけ、窓を閉めたりヘッドホンを使用するなどして、お互いに快適な生活環境を守りましょう。このマークは音のエチケットのシンボルマークです。



接 続

⚠ 接続時の注意

- 全ての接続が終わってから電源プラグを差し込んでください。
- 接続する機器の取扱説明書をよく読み、説明に従って接続してください。
- ノイズ発生の原因になりますので、接続ケーブルは電源コードと一緒に束ねないでください。



A アナログ入力端子 (INPUTS)

スーパーオーディオ CD プレーヤー、DVD プレーヤー、カセットデッキ、チューナーなどのアナログ出力端子と接続してください。

本機の R 端子と出力機器の R 端子、本機の L 端子と出力機器の L 端子をそれぞれ接続してください。

接続には市販のケーブルをお使いください。

XLR: バランス型 XLR ケーブル

XLR バランスプラグはレバーがロックするまで差し込んでください。外すときにはレバーを押さえて抜いてください。

RCA, PHONO: RCA ケーブル

白のピンプラグを白 (L) 端子に、赤のピンプラグを赤 (R) 端子に接続してください。

レコードプレーヤーの接続

本機はフォノイコライザーを内蔵しています。レコードプレーヤーを接続するときは、PHONO 端子に接続してください。

- レコードプレーヤーのアースは、必ず本機のアース端子 (SIGNAL GND) と接続してください。
- カートリッジタイプ (PHONO>) にご使用のカートリッジのタイプを設定してください。(26 ページ)

B アース端子 (SIGNAL GND)

市販のビニール電線でスーパーオーディオ CD プレーヤーやパワーアンプなどとアース接続すると、音質が良くなる場合があります。

- 安全アースではありません。

C アナログ出力端子 (PRE OUT)

2 チャンネルのアナログ音声を出力します。

本機をプリアンプとして使用する場合は、11 ページの「接続 (プリアンプとして使用する場合)」をご覧ください。

本機の R 端子と入力機器の R 端子、本機の L 端子と入力機器の L 端子をそれぞれ接続してください。

接続には市販のケーブルをお使いください。

XLR: バランス型 XLR ケーブル

XLR バランスプラグはコネクタがロックするまで差し込んでください。

ESL-A: バランス型 XLR ケーブル

市販のシールドタイプのケーブルをお使いください。(12 ページ)

D リモコン入力端子 (RS-232C)

専門業者 (カスタムインストーラー) 用のコントロール端子です。

E トリガー端子 (TRIGGER IN/OUT)

外部から電源をコントロールするための端子です。この端子を使わないときは何も接続しないでください。

F オプションボードスロット

別売りのオプションボードを取り付けるスロットです。

G DC IN 端子

外部電源ユニットと接続するための端子です。指定された機器以外との接続はしないでください。

H AC インレット (~ IN)

付属の電源コードを差し込んでください。

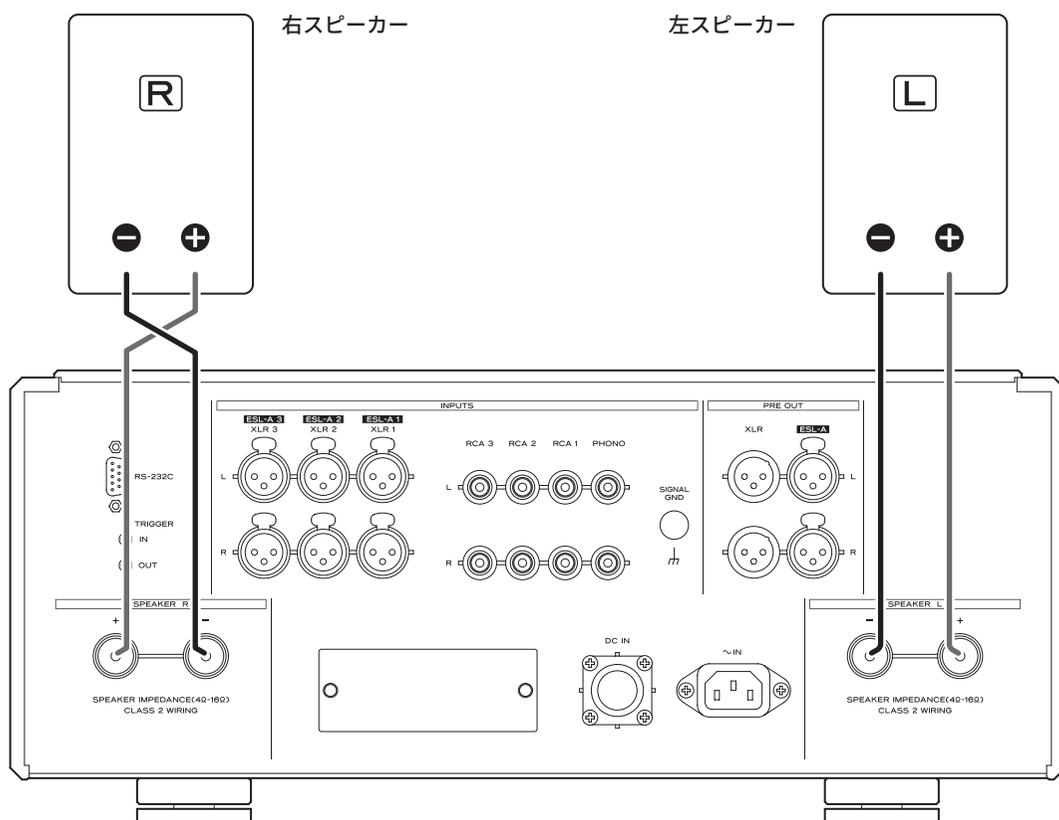
全ての接続が終わったら、電源プラグを 100V AC の電源コンセントに差し込んでください。

- 本機の AC インレットは 3 ピン仕様になっていますが、アースピンはシャーシには接続されていません。



エソテリック純正の電源コード以外は使わないでください。火災や感電の原因になることがあります。また、長期間使用しないときは、コンセントから電源プラグを抜いておいてください。

スピーカーとの接続



スピーカーケーブルについて

- 接続には、市販のスピーカー専用ケーブルをお使いください。
- スピーカーケーブルはできるだけ短いものをご用意ください。ケーブルは長くなるほど抵抗値が増加し、ダンピング特性が劣化します。また、インダクタンスやキャパシタンスも増加し、高域の音質が劣化します。
- 左右のスピーカーケーブルは、同じ長さのものを使用してください。

接続方法

市販のスピーカーケーブルを使って、本機とスピーカーの+端子同士、-端子同士を接続してください。

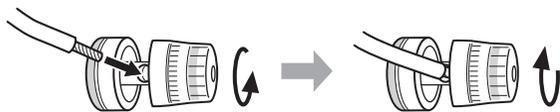
- インピーダンス4Ω以上のスピーカーをご使用ください。
- スピーカーケーブルの先端の芯線が露出している部分が、他のコードや端子と接触すると、ショートすることがあります。スピーカーケーブルは絶対にショートさせないでください。
- 1つのスピーカーに2台以上のアンプを接続しないでください。
- ノイズ発生の原因になりますので、スピーカーケーブルは電源コードと一緒に束ねないでください。

⚠ スピーカーケーブルの接続は、必ず電源プラグを抜いた状態で行ってください。

接続 (プリアンプとして使用する場合)

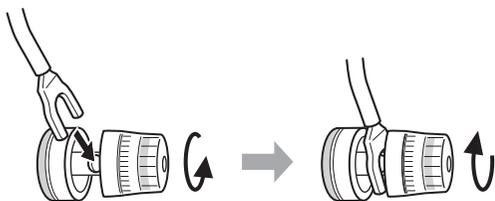
より線の場合

つまみをゆるめ、ターミナルの奥の穴に芯線を差し込み、つまみを締めます。



Y ラグの場合

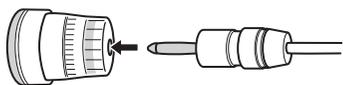
つまみをゆるめ、ターミナルの差し込み口に端末を差し込み、つまみを締めます。



- Y ラグ端子で接続する場合は、内径 8mm 以上のものをお使いください。

バナナプラグの場合

つまみを締めた状態で、端子正面の差し込み口に端末を差し込みます。



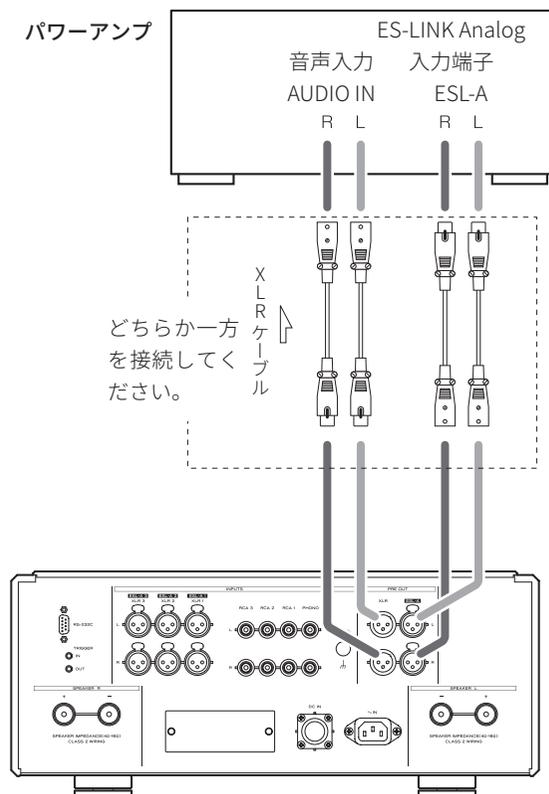
- ご使用になるバナナプラグの説明書をよくお読みください。



スピーカーケーブル接続時の注意

接続が緩んで、スピーカーケーブル先端の芯線が露出している部分や端末が、他の金属部分や本体に触れないように、接続はしっかりとしてください。

パワーアンプ



接続

本機のアナログ出力端子 (PRE OUT) とパワーアンプのアナログ入力端子を、市販の XLR ケーブルを使って接続します。

設定

出力切換ボタン (OUTPUT) を押して、出力する端子を SP+PRE または PRE に設定してください。(20 ページ)

⚠ 接続時の注意

全ての接続が終わってから電源プラグを差し込んでください。接続する機器の取扱説明書をよく読み、説明に従って接続してください。

ノイズ発生の原因になりますので、接続ケーブルは電源コードと一緒に束ねないでください。

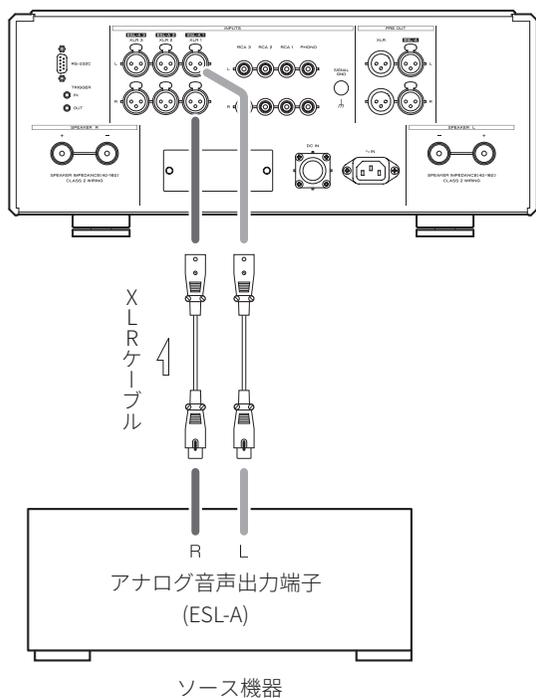
ES-LINK Analog で接続する

ES-LINK Analog について

ハイスピードで強力な電流供給能力を誇るHCLDバッファ回路の性能を生かした電流伝送方式により、信号経路のインピーダンスの影響を受けにくく、信号をピュアに力強く伝送することが可能です。

- 接続ケーブルは、シールド構造のバランスケーブルをお使いください。
- 接続ケーブルは一般的なバランスケーブル(端子形状:XLR)ですが、独自伝送方式のため、対応する機器以外ではご使用になれません。

ソース機器と ES-LINK Analog で接続する場合



注意

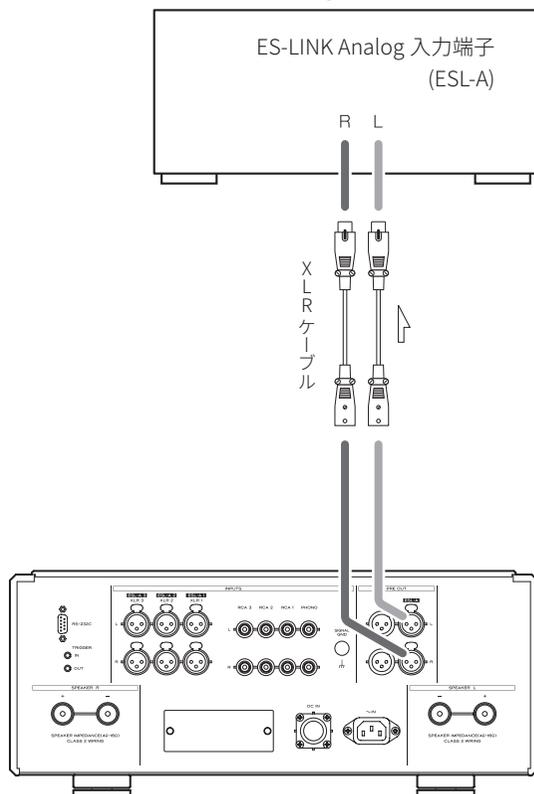
ソース機器のアナログ出力設定をESLAにしてから接続を行ってください。

ソース機器のアナログ音声出力端子(ESL-A)と本機のアナログ音声入力端子の(ESL-A)とをXLRケーブルで接続します。

- ソース機器と接続する本機の入力端子の動作モードをESLAに設定してください。(26 ページ)

パワーアンプと ES-LINK Analog で接続する場合

ES-LINK Analog 対応パワーアンプ



本機のアナログ音声出力端子(ESL-A)とパワーアンプのES-LINK Analog 入力端子(ESL-A)をXLRケーブルで接続します。

- パワーアンプの入力切替をESLAに設定してください。
- 出力切替ボタン(OUTPUT)を押して、出力する端子をSP+PREまたはPREに設定してください。(20 ページ)

注意

本機のESL-A出力端子は、XLR出力端子との誤配線を防ぐためにメス型コネクタになっています。

ヘッドホンの接続

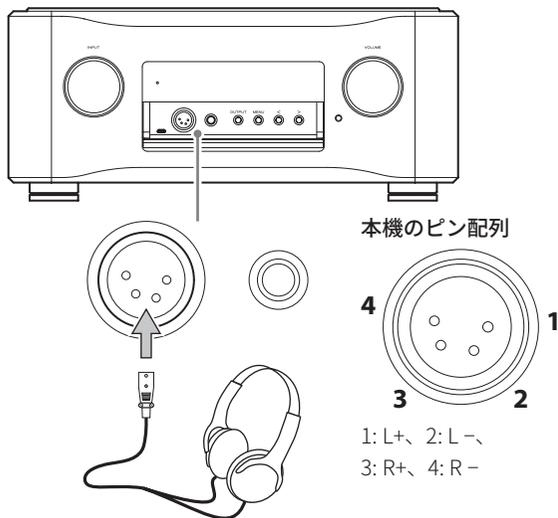
⚠ 注意

ヘッドホンに耳に着けたまま、電源のスタンバイ / オンや、ヘッドホンプラグの抜き差しを行わないでください。突然大きな音が出て、聴力障害の原因となることがあります。

必ず音量を最小 (音量表示が「STEP (0 - 99.9)」のとき 0、「dB」のとき $-\infty$) の位置まで下げてからヘッドホンを装着してください。(18 ページ)

バランス駆動タイプ (BAL)

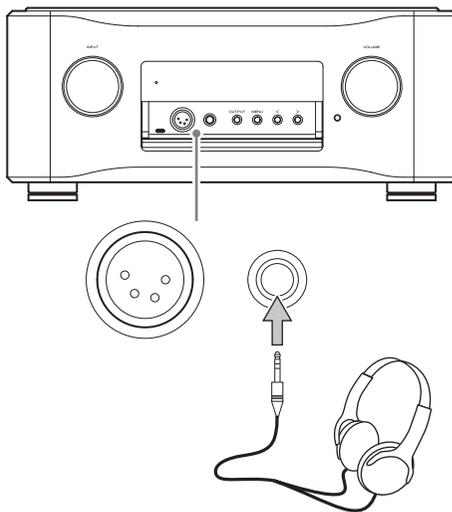
4ピン XLR プラグのヘッドホンを接続します。出力切換ボタン (OUTPUT) を押して、出力する端子を Phones(BAL) に設定してください。(20 ページ)



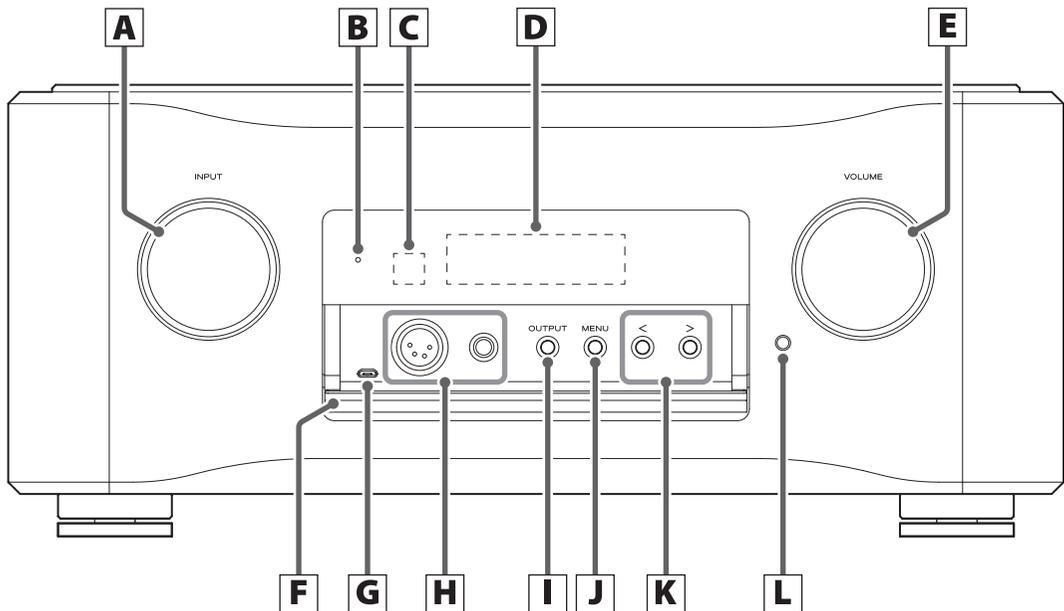
アンバランス駆動タイプ

(UNBAL、一般的なヘッドホン)

6.3mm ステレオ標準プラグのヘッドホンを接続します。出力切換ボタン (OUTPUT) を押して、出力する端子を Phones(UNBAL) に設定してください。(20 ページ)



各部の名称 (本体)



● 上図はドアを開いた状態です。

A 入力切替つまみ (INPUT)

入力ソースを切り換えます。再生する機器が接続されている端子を選んでください。

- ディスプレーに表示される端子名は、変更することができます。(23 ページ)

ソース名入力時は、文字選択に使用します。

長押しすると電源ボタンとして機能し、電源がオンとスタンバイに切り換わります。

B 電源インジケータ

電源がオンのとき点灯します。

C リモコン受光部

リモコンからの信号を受信します。リモコンを使用するときは、リモコンの先端をこちらに向けて操作してください。(15 ページ)

D ディスプレー

入力ソース名、音量、設定項目などが表示されます。

E 音量つまみ (VOLUME)

音量を調節します。

音量は右に回すと大きくなり、左に回すと小さくなります。

押すとミュートボタンとして機能し、一時的に音を消すことができます。もう一度押すと元の音量に戻ります。(19 ページ)

ミュート時は、画面に「MUTE」が点滅表示します。

- シグナルスルーに設定した入力ソースは、音量つまみ (VOLUME) が機能しません。(26 ページ)



突然大きな音が出ると、聴力障害などの原因になることがあります。音量は最小にしておいて、音を出してから適切な音量に調節するようにしてください。

F ドア

G メンテナンス用端子

メンテナンスで使用します。弊社サービス部門の指示が無い限り、何も接続しないでください。

リモコンについて

H ヘッドホン端子

ヘッドホンプラグ (6.3mm ステレオ標準プラグまたは4ピンXLRプラグ) を接続します。(13 ページ)

I 出力切換ボタン (OUTPUT)

押すごとにアナログ音声を出力する端子が切り換わります。(20 ページ)

設定モード時に押すと、通常表示に戻ります。

J メニューボタン (MENU)

設定モードになります。

K 選択項目変更ボタン (</>)

設定モード時の設定値変更に使用します。

L オープンボタン

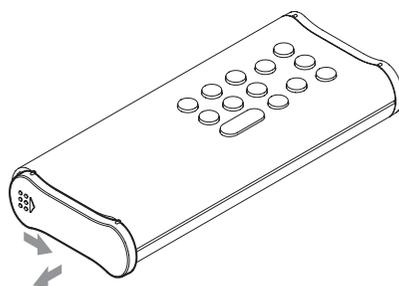
押すと、ディスプレイ下のドアが開きます。

リモコン使用上の注意

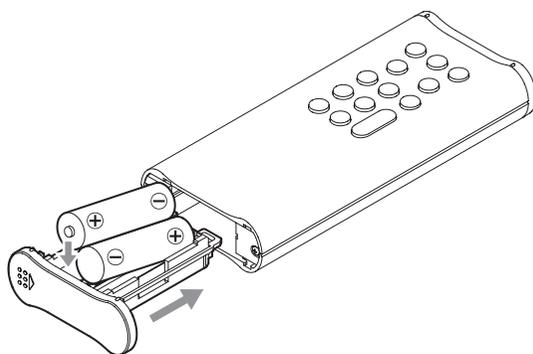
- リモコンの先端を本体のリモコン受光部に向けて、7メートル以内の距離で操作してください。本体とリモコンの間には障害物を置かないでください。
- リモコンの受光部に直射日光や照明の強い光が当たっていると、リモコン操作ができないことがあります。
- 本機のリモコンを操作すると、赤外線によりコントロールする他の機器を誤動作させることがありますのでご注意ください。

電池の入れ方

- 1** リモコンの底面を図のようにスライドさせて、電池ケースを引き出す。



- 2** ケースの ⊕ と ⊖ の表示に合わせて乾電池 (単3形) 2本を入れて電池ケースを戻す。

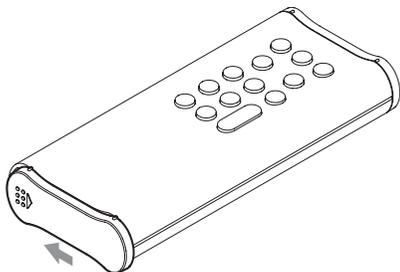


次のページに続きます。 ➔

リモコンについて (続き)

各部の名称 (リモコン)

- 3** リモコンの底面を図のようにスライドさせて、電池ケースを取り付ける。



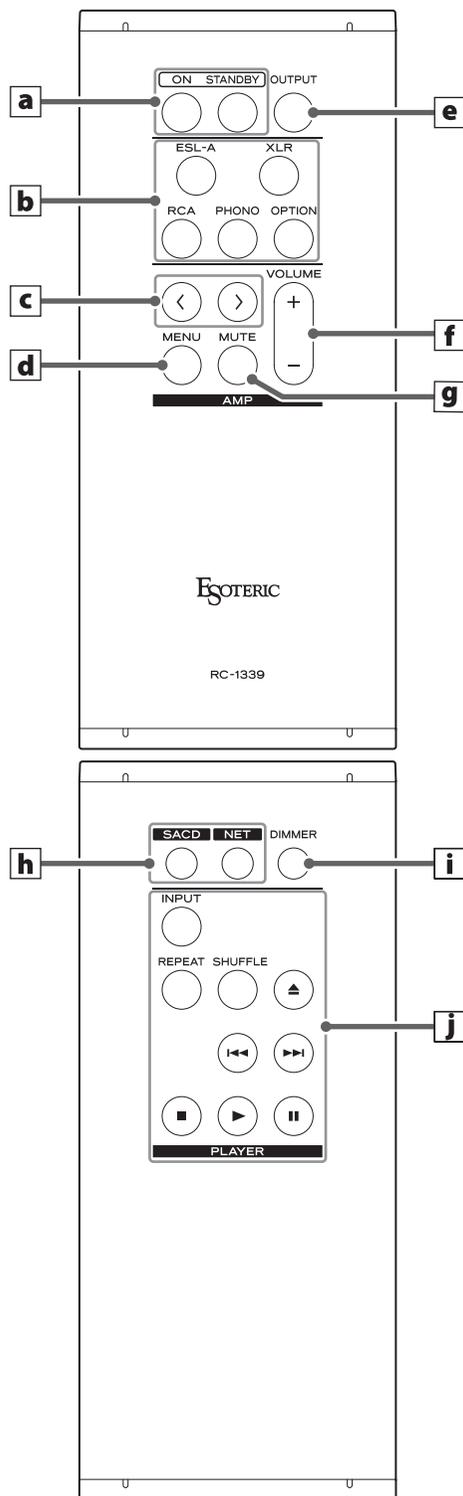
電池の交換時期

操作範囲が狭くなったり、操作ボタンを押しても動作しない場合は、2本とも新しい電池に交換してください。
使い終わった電池は電池に記載された廃棄方法、もしくは各市町村指定の廃棄方法に従って捨ててください。

⚠ 電池についての注意

乾電池を誤って使用すると、電池の破裂、液もれにより、火災、けがや周囲を汚損する原因となることがあります。

6 ページの注意をよく読んでご使用ください。



本体とリモコンに同じ機能のボタンがある場合、この取扱説明書ではいずれかのボタンを使って説明していますが、記載されていない方のボタンも同様に使えます。

- このリモコンで他のエソテリック製品も操作することができます。

a オン / スタンバイボタン (ON/STANDBY)

電源をオン / スタンバイします。

b 入力切替ボタン

入力を切り換えます。再生する機器が接続されている端子を選んでください。

XLR

押すごとに入力端子の動作モードが XLR に設定されている端子に切り換わります。

ESL-A

押すごとに入力端子の動作モードが ESLA に設定されている端子に切り換わります。

RCA

押すごとに RCA 端子が切り換わります。

PHONO

PHONO 入力選択時に押すとカートリッジタイプ (MM/MC) を切替えます。

OPTION

オプションスロットに増設される入力端子を選択します。

- ソース名入力時は、ESL-A、XLR ボタンを文字選択に使用します。

c 選択項目変更ボタン (</>)

設定モード時の設定値変更に使用します。

d メニューボタン (MENU)

設定モードになります。(21 ページ)

e 出力切替ボタン (OUTPUT)

押すごとにアナログ音声を出力する端子が切り換わります。(20 ページ)

設定モード時に押すと、設定を終了します。

f 音量ボタン (VOLUME + / -)

音量を調節します。+を押すと大きくなり、-を押すと小さくなります。

- シグナルスルーに設定した入力ソースは、音量ボタン (VOLUME + / -) が機能しません。(26 ページ)

g ミュートボタン (MUTE)

ミュートボタンを押すと、一時的に音を消すことができます。もう一度押すと元の音量に戻ります。(19 ページ)

- ミュート時は、画面に「MUTE」が点滅表示します。

h モード切替ボタン

SACD ボタンを押すと、リモコンは SACD モードとなり、プレーヤー操作ボタンで SACD プレーヤー / トランスポートを操作できます。

NET ボタンを押すと、リモコンは NET モードとなり、プレーヤー操作ボタンでネットワークプレーヤーを操作できます。

モード切替後は、もう一度 SACD/NET ボタンを押すか、電池交換するまで、各モードを維持します。

i ディマーボタン (DIMMER)

ディスプレイの明るさを調節します。(20 ページ)

j プレーヤー操作ボタン

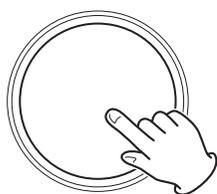
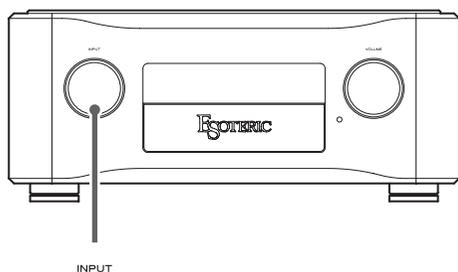
ESOTERIC のプレーヤーを操作するときに使用します。

基本操作

電源をオンにする

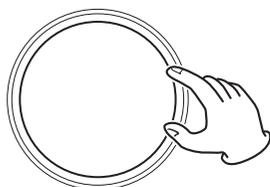
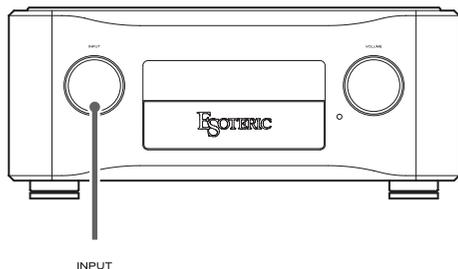
1 本機に接続されているソース側の機器の電源をオンにする。

2 入力切替つまみ (INPUT) を電源インジケータが点灯するまで押して、電源をオンにする。

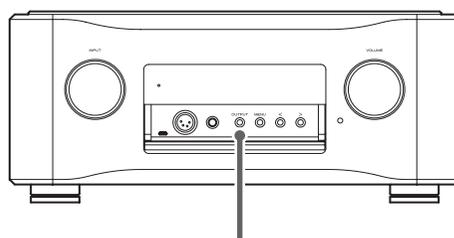


- 本機をプリアンプとして使用するときは、パワーアンプの電源を最後にオンにしてください。
- リモコンのオンボタン (ON) でも電源をオンにできます。

3 入力切替つまみ (INPUT) を回して入力ソースを選ぶ。



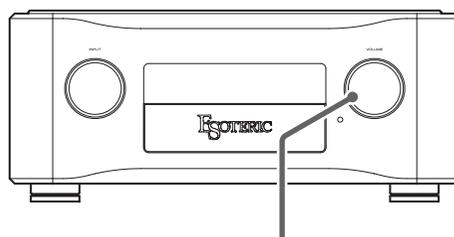
4 出力切替ボタン (OUTPUT) を押して、アナログ音声出力する端子を選択する。(20 ページ)



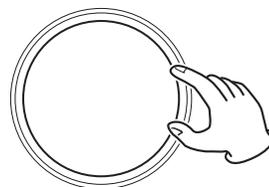
OUTPUT



5 入力ソースを再生し、音量つまみ (VOLUME) を回して音量を調節する。



VOLUME



! 突然大きな音が出ると、聴力障害などの原因になることがあります。音量は最小にしておいて、音を出してから適切な音量に調節するようにしてください。

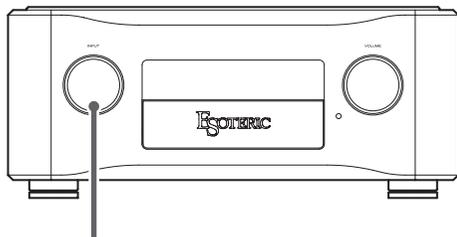
電源をスタンバイにする

不用意に電源を切るとスピーカーからノイズが出ることがあります。本機の電源をスタンバイにするときは、以下の手順に従ってください。

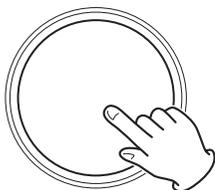
1 接続した機器が再生中の場合は、再生を停止する。

- 本機をプリアンプとして使用するときは、パワーアンプの電源を最初にオフにしてください。

2 本機の入力切換つまみ (INPUT) をディスプレイに「OFF」と表示されるまで押して、スタンバイにする。



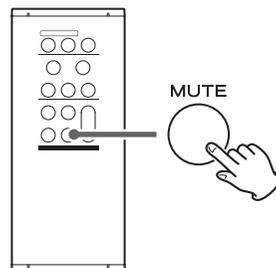
INPUT



- リモコンのスタンバイボタン (STANDBY) でも電源をスタンバイにできます。

3 本機に接続されているソース側の機器の電源をオフにする。

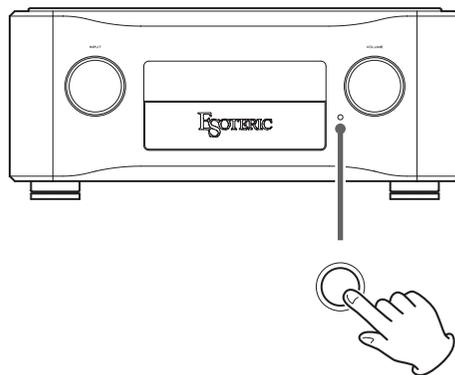
ミュート (消音)



ミュートボタン (MUTE) を押すと、一時的に音を消すことができます。もう一度押すと元の音量に戻ります。

- ミュート時は、画面に「MUTE」が点滅表示します。
- ミュート中に音量ボタン (VOLUME + / -) を押す、または音量つまみ (VOLUME) を回すとミュートは解除されます。
- 本体の音量つまみ (VOLUME) を押してもミュート (消音) できます。

ドアを開ける

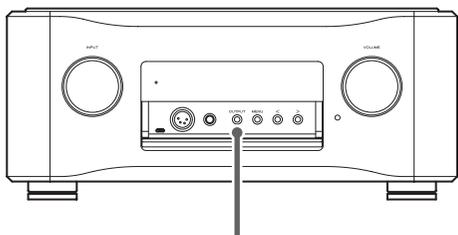


オープンボタンを押すとドアが開きます。

基本操作 (続き)

出力する端子を切換える

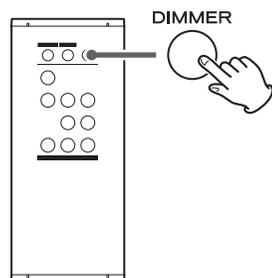
出力切換ボタン (OUTPUT) を押すごとにアナログ音声を出力する端子が切り換わります。



OUTPUT



ディマー



本体のディスプレイの明るさを調節できます。



- 消灯中にいずれかのボタンを押したり、つまみをまわすと、数秒間だけディスプレイが通常)の明るさで点灯します。
- 設定モード)のときは通常)の明るさで点灯します。
- DIMMER 1 または消灯が選択されていても、設定メニューやエラー内容は DIMMER 2 で表示されます。
- 長押しすると、DIMMER 2 に設定されます。

設定

基本操作

本機の設定は、設定 1、設定 2 と設定 3 の三つのグループに分かれています。

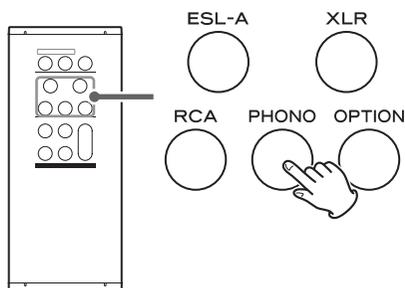
メニューボタン (MENU) の押し方によって設定 1、設定 2 と設定 3 の表示を切り換えます。

- 設定した内容は、電源プラグを抜いても保持されます。

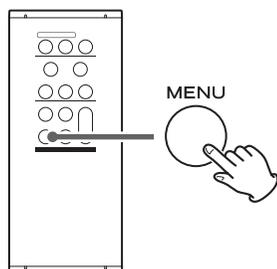
1 設定画面を表示させる。

設定 1 を表示させる場合

1. 入力切換ボタンを押して設定する入力ソースを選ぶ。
本体で操作するときには入力切換つまみ (INPUT) を回します。



2. メニューボタン (MENU) を押して、設定 1 を表示させる。



設定 2 を表示させる場合

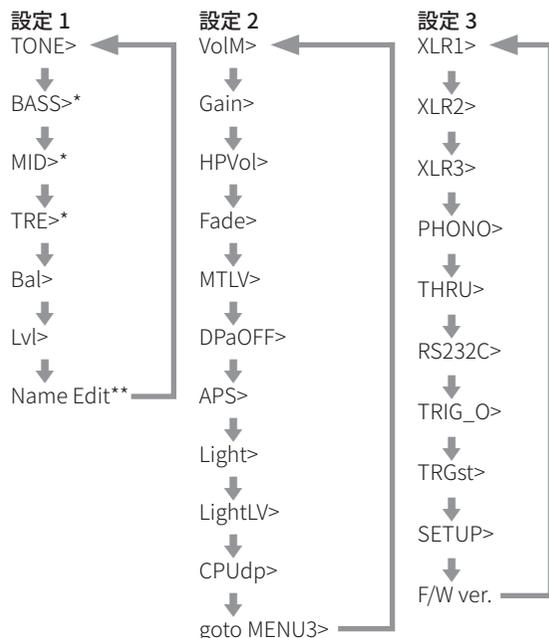
メニューボタン (MENU) を長押しする。

設定 3 を表示させる場合

設定 2 画面で「goto MENU3」を表示させ、メニューボタン (MENU) を長押しする。

- 設定中は、ディスプレイの左上に「MENU1」、「MENU2」、「MENU3」が表示されます。

2 メニューボタン (MENU) をくり返し押しして、変更する項目を選ぶ。

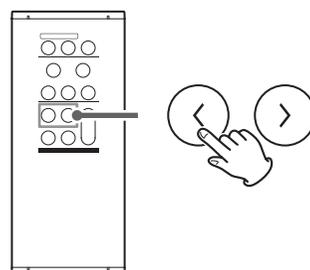


* TONE>ON 時のみ表示

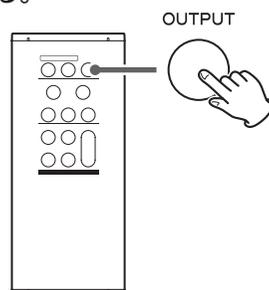
** 別売りのオプションボードによっては、取り付けると "Name Edit" の後ろに設定項目を表示します。

詳細は、各オプションボードの取り扱い説明書を参照してください。

3 選択項目変更ボタン (< または >) を使って設定を変更する。



4 出力切換ボタン (OUTPUT) を押して、設定を終了する。



または 10 秒以上放置すると、設定を終了して通常の表示に戻ります。

設定 1

設定 1 では、選択されている入力ソースの設定を行います。
入力端子ごとに異なる設定ができます。

トーンコントロール

TONE> ***

音声信号をトーン回路で調節するか設定します。

- 出荷時は BYPAS(bypass) に設定されています。

ON

低音域 (BASS)、中音域 (MID)、高音域 (TRE) の各音域のレベルを調節することができます。

BYPAS

音声信号がトーン回路を通過せずに、増幅されます。

低音域の調整

BASS> ***

TONE>ON 時のみ表示します。

-12.0~0.0~+12.0(dB)の範囲で0.5dB刻みで設定できます。

- 出荷時は 0.0(dB) に設定されています。

中音域の調整

MID> ***

TONE>ON 時のみ表示します。

-12.0~0.0~+12.0(dB)の範囲で0.5dB刻みで設定できます。

- 出荷時は 0.0(dB) に設定されています。

高音域の調整

TRE> ***

TONE>ON 時のみ表示します。

-12.0~0.0~+12.0(dB)の範囲で0.5dB刻みで設定できます。

- 出荷時は 0.0(dB) に設定されています。

左右バランス

Bal> ***

出力される音声の、左右のバランスを調整します。

L6.0 (dB) ~ 0.0 ~ R6.0 (dB) の範囲で 0.1dB 刻みで設定できます。また、片側のチャンネルをミュートする設定も可能です。

- 出荷時は 0.0 (バランス調整なし) に設定されています。

片側チャンネルをミュートする

「>」ボタンを押して表示を「Bal>R-only」にすると、Rチャンネルのみ出力します。

同様に、「<」ボタンを押して「Bal>L-only」にすると、Lチャンネルのみを出力します。

出力レベルの調整

Lvl> ***

選択されている入力端子の出力レベルを調整します。

-18.0(dB) ~ +18.0(dB) の範囲で 0.1dB 刻みで設定できます。

- 出荷時は 0.0(dB) に設定されています。

設定と音質について

左右バランス (Bal) や出力レベルの調整 (Lvl)、アンプゲイン (Gain,HPVol) は音量に関わる設定項目です。これらの設定と音量 (VOLUME) の設定値は、総合的にマイコンで判断され、一カ所のボリュームコントロールアンプで一括制御されています。

そのため、音声信号がいくつかの回路を通過してしまう一般的なアンプと異なり、設定による音質劣化はありませんのでご安心ください。

入力ソース名の編集

Name Edit

入力切替つまみ (INPUT) を回したときにディスプレイに表示される端子名を、お好きな名前 (5 文字以内) にすることができます。

入力ソース名を入力するときは

1. 編集する入力ソースを選択する。
2. メニューボタン (MENU) をくり返し押しして Name Edit を表示させる。
3. メニューボタン (MENU) を長押しする。
入力ソースが XLR1 のときは XLR1: ****と表示されます。
4. 文字を入力する。
入力中の文字とカーソルが交互に表示されます。
入力切替ボタンの ESL-A/XLR ボタン、または本体の入力切替つまみ (INPUT) で文字を選択します。
5. カーソルを移動する。
選択項目変更ボタン (</>) で移動します。
6. 入力が終わったらメニューボタン (MENU) を長押しする。
 - 入力を中止するときは、出力切替ボタン (OUTPUT) を押します。
 - 文字の入力中は、入力ソースを切り換えることができません。
 - 使用できる文字
アルファベット： A～Z、a～z
数字： 0～9
記号： ! " # \$ % & ' () * + , - . / \ : ; < = > ? @ (空白)
 - 5文字をすべて「」（空白）にすると、入力ソース名をクリアします。

設定 2

設定 2 では表示や製品全体に関係する設定をします。

音量表示モード

VolM> ***

音量の表示方法を設定します。

- 出荷時は、dB に設定されています。

STEP

音量を 0.0 ~ 99.9 で表示します。

dB

音量を dB 単位で表示します。

プリアンプゲイン

Gain> ***

プリアンプ部のゲインを切り換えます。

- 出荷時は、+12dB に設定されています。
- この設定値が、プリアンプ部のゲインの上限になります。
- 設定変更後はミュート (消音) 状態になります。
- ご使用のスピーカーやヘッドホンによっては、プリアンプゲインを大きくするとホワイトノイズが気になる場合があります。その際はゲインを小さくしてください。

0dB

ゲイン 0dB。

音量の調整範囲は -∞ dB、-99.9dB ~ 0dB となります。

+6dB

ゲイン +6dB。

音量の調整範囲は -∞ dB、-99.9dB ~ +6dB となります。

+12dB

ゲイン +12dB。

音量の調整範囲は -∞ dB、-94.9dB ~ +12dB となります。

+18dB

ゲイン +18dB。

音量の調整範囲は -∞ dB、-89.9dB ~ +18dB となります。

ヘッドホンアンプゲイン

HPVol> ***

ヘッドホンアンプのゲインを設定します。

0 ~ +18.0(dB) の範囲で 3dB 刻みで設定できます。

- 出荷時は、0dB に設定されています。

フェードイン / アウト時間

Fade> ***

TM1、TM2、TM3の順にミュート解除時 / ミュート時のフェードイン / アウトの時間が長くなります。

- 出荷時は、TM2 に設定されています。

ミュートレベル

MTLV> ***

ミュート (MUTE) 時の音量を設定します。

- 出荷時は「-∞ dB」に設定されています。

-∞ dB

ミュート (MUTE) 時の音量を -∞ dB にします。

-20dB

ミュート (MUTE) 時の音量を、設定されている音量から 20dB 小さくします。

自動ディスプレイ消灯

DPaOFF> ***

自動的にディスプレイを消灯する設定を行います。

- 出荷時は OFF に設定されています。

ON

10 分間操作のない状態が続くと、ディスプレイを自動的に消灯します。

DIM

10 分間操作のない状態が続くと、ディスプレイを DIMMER1 と同じ明るさにします。

OFF

自動ディスプレイ消灯を行いません。

- ディスプレー表示器は、同じ表示状態で長時間使用し続けると、輝度ムラが起こることがありますので、自動ディスプレイ消灯を ON にすることをお勧めします。

オート・パワー・セーブ機能

APS> ***

選択した入力ソースに音声入力の無い状態 (無音状態) が設定時間続くと、電源を自動的にスタンバイ状態にします。

- 出荷時は、OFF に設定されています。
- 選択されていない入力ソースへの音声入力の有無は、オート・パワー・セーブの動作に影響しません。

30m

30分

60m

60分

90m

90分

120m

120分

OFF

オート・パワー・セーブ機能を使用しません。

イルミネーション

Light> ***

入力切替つまみ (INPUT)、音量つまみ (VOLUME) の周りの照明の点灯方法を設定できます。

- 出荷時は AUTO に設定されています。

AUTO

操作時につまみの周りの照明が点灯します。

ON

つまみの周りの照明を常に点灯します。

OFF

つまみの周りの照明を点灯しません。

イルミネーションの輝度

LightLV> ***

つまみの周りの照明の輝度を設定できます。

- 出荷時は 5 に設定されています。



CPU 動作停止状態表示

CPUdp >***

- 出荷時は「ON」に設定されています。

OFF

動作停止状態の表示を行いません。

ON

本機の制御を行っている CPU の動作を停止させる際に、表示管に「CPU off」と表示します。本体 (つまみ、ボタン) やリモコンの操作を行うと、動作停止状態から動作状態に復帰し、本機のコントロールを行い、その後自動的に再度動作停止状態になります。

- APS 機能が OFF 以外に設定されている場合は、動作状況の確認と時間の計測を行うため、CPU は動作停止モードになりません。
- DPaOFF が ON または DIM に設定されている場合、ディスプレイの自動消灯までの間、CPU は動作停止モードになりません。
- RS232C 外部制御の設定が ON に設定されているときは、外部からのコントロール待ち受けのため、CPU は動作停止モードになりません。
- イルミネーション設定が ON の場合も、常時照明の輝度を調整しているため、CPU は動作停止モードになりません。

設定 3 表示

goto MENU3

メニューボタン (MENU) を長押しすると設定 3 を表示します。

設定 3

 設定 3 は、アンプ動作にかかわる設定項目で、誤った設定を行うとスピーカーを破損する恐れのある設定項目です。

入力端子の動作モード

XLR1> ***

XLR2> ***

XLR3> ***

入力端子の動作モードを設定します。

- 出荷時は、XLR に設定されています。

XLR

通常のバランス接続で使用する場合に選択してください。

ESLA

ES-LINK Analog 接続で使用する場合に選択してください。

カートリッジタイプ

PHONO> ***

PHONO 端子に接続したレコードプレーヤーに使用しているカートリッジのタイプを設定します。

- 出荷時は、MM に設定されています。

MM

MM カートリッジまたは MC カートリッジを昇圧トランス経由で使用する場合に選択してください。

MC

MC カートリッジを使用する場合に選択してください。

シグナルスルー

THRU> ***

シグナルスルーとして使う入力を設定することができます。

- 出荷時は OFF に設定されています。

OFF

シグナルスルーを使用しません。

XLR1 / ESLA1*

XLR2 / ESLA2*

XLR3 / ESLA3*

RCA1

RCA2

RCA3

PHONO

選択した入力端子の信号のみ、ボリュームコントロール機能を使用せず、パワーアンプに入力します。

- * 入力端子の動作モードの設定に従ってどちらかが表示されます。

 通常のライン機器が接続されている入力を選択してしまうと、過大な信号がスピーカーに出力され、スピーカーを破損する恐れがあります。

ディスプレイには、音量つまみ / ボタン (VOLUME) で設定した音量の代わりに「THRU」と表示されます。

例えば、AV アンプのプリアウト端子 (FRONT L/R など) を本機の RCA2 端子と接続し、RCA2 を THRU に設定すると、本機と接続したスピーカーを AV アンプのフロントスピーカーとしても共用することができます。(この場合、入力ソースに RCA2 を選択したときの音量調節は AV アンプで行います。)

- THRU に設定した入力端子の音量は音量つまみ / ボタン (VOLUME) が機能しません。

 THRU に設定した入力端子には、必ず音量調節できる機器を接続してください。接続した機器の音量を最小にしてから入力ソースを切り換えて、接続した機器の音量を徐々に上げてください。

リモコン入力端子 (RS-232C)

RS232C> ***

リモコン入力端子 (RS-232C) を使用時のみ「ON」に設定してください。

- 出荷時は「OFF」に設定されています。

OFF

リモコン入力端子 (RS-232C) を使用しません。

ON

リモコン入力端子 (RS-232C) を使用します。

トリガー信号出力

TRIG_O> ***

- 出荷時は「OFF」に設定されています。

OFF

トリガー信号を出力しません。

ON

トリガー信号を出力します。

トリガー起動

TRGst> ***

トリガー入力信号で電源をオンにしたときの動作を設定します。

- 出荷時は LAST に設定されています。

LAST

トリガー入力信号で電源をオンにしたときも、電源をスタンバイにしたときの状態 (入力、音量など) で起動します。

THRU

トリガー入力信号で電源をオンにしたとき、シグナルスルー (THRU>) で設定した入力信号をスルー出力します。

- シグナルスルー (THRU>) が OFF に設定されていると、電源をスタンバイしたときの状態で起動します。

設定の初期化

SETUP> ***

設定した内容を工場出荷時の状態に戻し、すべてのメモリーを消去します。

設定の初期化をするには以下の操作を行ってください。

1. 設定項目変更ボタン (<または >) を押して「CLR」を表示させる。
2. 「CLR」表示中にメニューボタン (MENU) を長押しする。

ファームウェアのバージョン

F/W ver

> ボタンを押すと、各ファームウェアのバージョンを表示します。

I/F v *** . **

INP v *** . **

「*** . **」の部分がバージョンです。

保護回路について

本機には、直流保護回路、過電流保護回路、過熱保護回路が内蔵されています。

- 直流保護回路が働くと、直ちに電源をスタンバイにします。

過電流保護回路または過熱保護回路が働くと、電源インジケータが点滅し、ディスプレイに以下のエラーを点滅表示します。

Overload!

過電流保護回路が動作しています。

エラー状態が 30 秒以上続くと、電源をスタンバイにします。

スピーカケーブルの+と-がショートしている可能性があるため、電源をスタンバイにして、スピーカとの接続を確認してください。

Over TEMP!

過熱保護回路が動作しています。

エラー状態が 30 秒以上続くと、電源をスタンバイにします。

内部の温度が高くなっているため、電源をスタンバイにしたまま温度が下がるまでしばらく待つか、設置条件を見直して、風通しを良くしてください。

- 内部の温度が高い状態で、電源ボタンを操作すると再び過熱保護回路が動作する場合があります。

保護回路の働く原因を取り除いても、なお保護回路が動作してしまう場合には、製品内部の異常等が考えられます。ティアック修理センター (32 ページに記載) にご連絡ください。

困ったときは

本機の調子がおかしいときは、修理を依頼される前に以下の内容をもう一度チェックしてください。また、本機以外の原因も考えられます。接続した機器の使用方法も併せてご確認ください。

それでも正常に動作しない場合は、お買い上げの販売店またはティアック修理センター (32 ページ) にご連絡ください。

電源が入らない

- ➔ 電源プラグをコンセントに差し込んでください。

電源が自動的にスタンバイになる

- ➔ POWER OFF 表示後、電源がスタンバイになる場合は、オート・パワー・セーブ機能が働いて電源がスタンバイになっています。

入力切替つまみ (INPUT) を電源インジケータが点灯するまで押して、電源をオンにしてください。

必要に応じてオート・パワー・セーブの設定を変更してください。(25 ページ)

- ➔ POWER OFF が表示されず、電源がスタンバイになる場合は、直流保護回路が動作しています。ティアック修理センター (32 ページに記載) にご連絡ください。

リモコンで操作できない

- ➔ 本体の電源をオンにしてください。(18 ページ)
- ➔ 電池が消耗していたら、2 本とも新しい電池に交換してください。(16 ページ)
- ➔ 本体とリモコンの間に障害物があると操作できません。本体の正面から 7 メートル以内の距離で、本体の方に向けて操作してください。(15 ページ)

テレビなどが誤動作する

- ➔ ワイヤレスリモコン機能を持つテレビの一部には、本機のリモコン操作により誤動作するものがあります。

音量つまみ (VOLUME) が機能しない

- ➔ シグナルスルーに設定した入力ソースは、音量つまみ (VOLUME) が機能しません。(26 ページ)

エラーメッセージが表示される

- ➔ 保護回路が働いています。電源を切り、原因を取り除いてください。(28 ページ)
- ➔ スピーカケーブルの+と-がショートしている可能性があります。スピーカケーブルの接続を確認してください。(10 ページ)

ステレオの定位が不安定

- ➔ 接続ケーブルの+と-が逆になっているスピーカがないか確認してください。

本機はマイコンを使用しておりますので、外部からの雑音やノイズ等によって正常な動作をしなくなることがあります。このような場合には、いったん電源をスタンバイにして、1 分以上経過後、操作を最初からやり直してください。

仕様 F-01/F-02

スピーカー出力

定格出力

F-01	30W + 30W (8 Ω) 60W + 60W (4 Ω)
F-02	120W + 120W (8 Ω) 240W + 240W (4 Ω)

全高調波歪率

F-01	0.008% (1kHz、8 Ω、30W)
F-02	0.008% (1kHz、8 Ω、120W)

周波数特性 10Hz ~ 100kHz
(1W 出力時 +0/-3.0dB)

S/N 比

F-01	104dB (IHF-A)
F-02	110dB (IHF-A)

ダンピングファクタ 500

適合最小インピーダンス 4 Ω

スピーカー出力端子 1 系統

入力

ESL-A/XLR 端子	3 系統
RCA 端子	3 系統
PHONO 端子	1 系統 (MM/MC 切り換え)

入力インピーダンス

XLR、RCA	10k Ω
PHONO (MM)	47k Ω
PHONO (MC)	100 Ω

出力

ESL-A 端子	1 系統
XLR 端子	1 系統
ヘッドホン端子	

6.3mm ステレオ標準ジャック 1 系統

4 ピン XLR ジャック 1 系統

実用最大出力

アンバランス出力 300mW + 300mW (32 Ω 負荷)

バランス出力 600mW + 600mW (32 Ω 負荷)

適合負荷インピーダンス

アンバランス出力 16 ~ 600 Ω

バランス出力 32 ~ 600 Ω

出力インピーダンス

XLR 100 Ω

PRE OUT S/N 比 (1V 出力時)

XLR、RCA 入力 110dB

PHONO (MM) 入力 97dB

PHONO (MC) 入力 78dB

ゲイン

プリアンプ部 最大 18dB (選択可)
(音量設定最大時)

パワーアンプ部 28.5dB

トーンコントロール

BASS ± 12dB (63Hz)

MIDDLE ± 12dB (630Hz)

TREBLE ± 12dB (14kHz)

外部コントロール

RS-232C 1

トリガー入力 (TRIGGER IN) 1
(3.5mm モノラルミニジャック)

入力レベル 12V、1mA

トリガー出力 (TRIGGER OUT) 1
(3.5mm モノラルミニジャック)

出力レベル 12V、50mA max

一般

電源 100V AC、50/60Hz

消費電力

F-01 250W (電気用品安全法)
215W (無信号時)F-02 280W (電気用品安全法)
110W (無信号時)

スタンバイ時

RS-232C 設定 OFF 時 0.3W

RS-232C 設定 ON 時 0.6W

外形寸法 445mm × 191mm × 471mm
(W × H × D、突起部を含む)

質量

F-01 32.2kg

F-02 32.4kg

許容動作温度 + 5°C ~ + 35°C

付属品

電源コード × 1

リモコン (RC-1339) × 1

リモコン用乾電池 (単 3) × 2

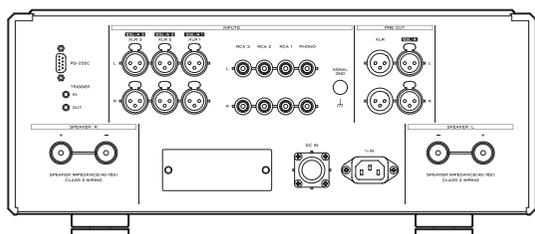
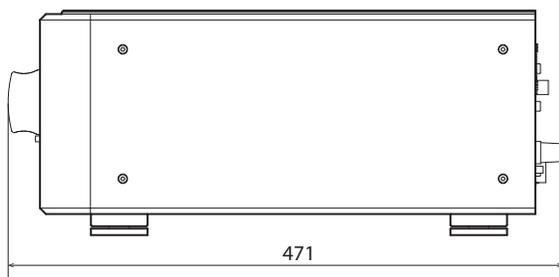
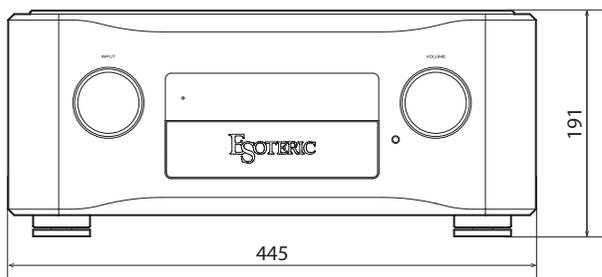
フェルト × 4 枚

取扱説明書 (本書) × 1

ご愛用者カード × 1

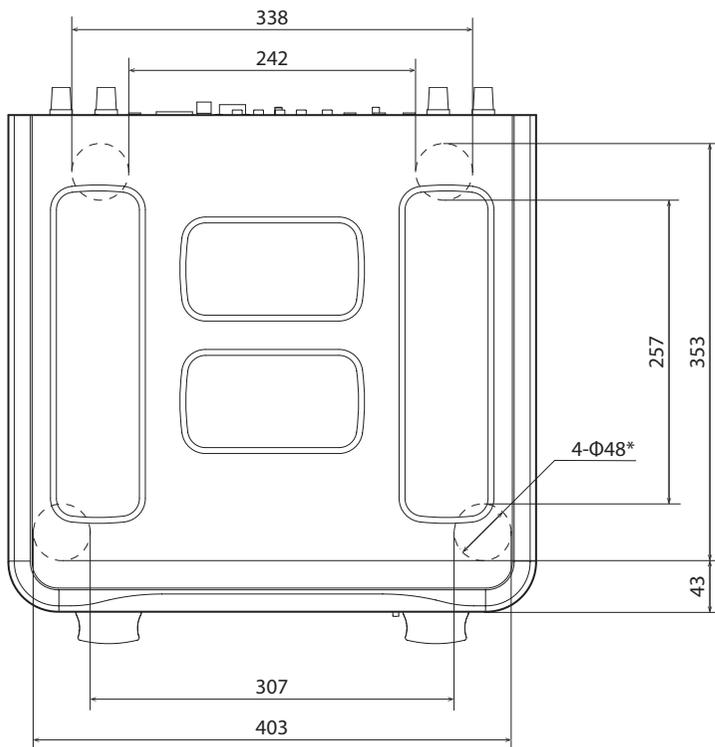
仕様及び外観は改善のため予告なく変更することがあります。
取扱説明書のイラストが一部製品と異なる場合があります。

寸法図 F-01/F-02



単位：mm

フット配置図



* 直径 48mm フット× 4

保証とアフターサービス

■保証書

保証書はご愛用者カードと引き換えに発行いたします。添付のご愛用者カードに必要な事項を御記入の上、ご購入後なるべく1ヶ月以内にご返送ください。保証書が届きましたら、保証内容をご確認の上、大切に保管してください。保証期間はご購入日から5年です。

- 保証書発行には約1ヶ月程度かかります。あらかじめご了承ください。
- ご記入頂いたご愛用者カードのご購入日が弊社出荷日と大きく異なる場合（6ヶ月以上ご愛用者カードの返送がない場合、ご愛用者カードでのユーザー登録をせず転売された場合等）は、保証書を発行できない場合があります。

無料修理規定

- 取扱説明書、本体貼付ラベルなどの注意書に従った正常な使用状態で保証期間内に故障が発生した場合には、弊社サービス部門が無料修理いたします。
- 保証期間内に故障して無料修理を受ける場合は、保証書をご提示の上、弊社サービス部門またはお買い上げの販売店に修理をご依頼ください。商品を送付していただく場合の送付方法については、事前に弊社サービス部門にお問い合わせください。なお、離島および離島に準じる遠隔地への出張修理を行った場合は、出張に要する実費を申し受けます。
- ご転居、ご贈答品等でお買い上げの販売店に修理をご依頼になれない場合は、弊社サービス部門にご連絡ください。
- 次の場合には保証期間内でも有料修理となります。
 - (1) ご使用上の誤りおよび不当な修理や改造による故障および損傷
 - (2) お買い上げ後の輸送・移動・落下などによる故障および損傷
 - (3) 火災、地震、水害、落雷、その他の天災地変、公害や異常電圧による故障および損傷
 - (4) 接続している他の機器に起因する故障および損傷
 - (5) 業務用の長時間使用など、特に苛酷な条件下において使用された場合の故障および損傷
 - (6) 消耗品の自然消耗、磨耗、劣化や寿命部品等の交換が必要となった場合のメンテナンスやオーバーホール
 - (7) 保証書の提示がない場合
 - (8) 保証書にお買い上げ年月日、お客様名、販売店名（印）の記入のない場合、あるいは字句を書き替えられた場合
- 保証書は日本国内においてのみ有効です。
This warranty is valid only in Japan.
- 保証書は再発行いたしませんので、紛失しないよう大切に保管してください。

■補修用性能部品の保有期間

当社は、この製品の補修用性能部品（製品の機能を維持するために必要な部品）を製造打ち切り後8年間保有しています。

■ご不明な点や修理に関するご相談は

修理に関するご相談、並びにご不明な点は、お買い上げの販売店、AVお客様相談室、もしくはティアック修理センター（32ページに記載）にお問い合わせください。

■修理を依頼されるときは

28ページの「困ったときは」に従って調べても、なお異常のあるときは使用を中止し、必ず電源プラグをコンセントから抜いて、お買い上げの販売店またはティアック修理センター（32ページに記載）にご連絡ください。

なお、本体の故障もしくは不具合により発生した付随的損害（録音内容などの補償）の責についてはご容赦ください。

保証期間中は

修理に際しましては保証書をご提示ください。保証書の規定に従って、修理いたします。

保証期間が過ぎているときは

修理すれば使用できる場合は、ご希望により有料にて修理いたします。

修理料金の仕組み

技術料：故障した製品を正常に修復するための料金です。測定機等の設備費、技術者の人件費、技術教育費が含まれています。

部品代：修理に使用した部品代金です。

その他修理に付帯する部材等を含む場合もあります。

出張料：製品のある場所へ技術者を派遣する場合の費用です。

修理の際ご連絡いただきたい内容

型名：インテグレートッドアンプ F-01 または F-02

シリアルナンバー：

お買い上げ日：

販売店名：

お客様のご連絡先

故障の状況（できるだけ詳しく）

■廃棄するときは

本機を廃棄する場合に必要な収集費などの費用は、お客様の負担になります。

分解・改造禁止

この機器は絶対に分解・改造しないでください。

この機器に対して、当社指定のサービス機関以外による修理や改造が行われた場合は、保証期間内であっても保証対象外となります。

当社指定のサービス機関以外による修理や改造によってこの機器が故障または損傷したり、人的・物的損害が生じても、当社は一切の責任を負いません。

ティアック株式会社

〒206-8530 東京都多摩市落合1-47

<https://www.esoteric.jp/jp/>

ESOTERIC ウェブサイト ▶



この製品の取り扱いなどに関するお問い合わせ

AVお客様相談室 〒206-8530 東京都多摩市落合1-47

042-356-9235

携帯電話、IP 電話をご利用の場合

0570-000-701



固定電話をご利用の場合

FAX : 042-356-9242

受付時間は、10:00 ~ 12:00/13:00 ~ 17:00 です。

(土・日・祝日・弊社指定休日を除く)

故障・修理や保守についてのお問い合わせ

ティアック修理センター 〒358-0026 埼玉県入間市小谷田858

04-2901-1033

携帯電話、IP 電話をご利用の場合

0570-000-501



固定電話をご利用の場合

FAX : 04-2901-1036

受付時間は、9:30 ~ 12:00/13:00 ~ 17:00 です。

(土・日・祝日・弊社指定休日を除く)

●住所や電話番号は、予告なく変更する場合があります。あらかじめご了承ください。

EGOTERIC